

平成 15 年度授業計画(シラバス)

1. 科目区分 専門科目
2. 科目名・単位数 学校社会学演習 4単位
3. 担当者氏名・所属 耳塚寛明 文教育学部人間社会科学科(教育科学講座)
4. 連絡場所 文教育1号館2F 教育社会学研究室
E-Mail: mimi@mailsvr.li.ocha.ac.jp
5. 履修年次・学期 III・IV 通年
6. 受講条件・受講上の注意
教育社会学概論の既修者・併修者に限定する。それ以外の場合は、耳塚まで相談のこと。
できれば、教育(学校)社会学特殊講義も履修することが望ましい。
7. 授業の形態 演習
8. 教科書・参考文献
授業計画参照(一部、各自購入を必要とする文献を含む)
9. 成績評価の方法
出席、報告、討論への参加、レポート(前期および後期)
10. 主題と目標 <学力の社会学 教育社会学理論と方法論>
本年のテーマは「学力の社会学」。このテーマを扱いながら、教育社会学的な問題の捉え方と研究方法論を学習する。文献の輪読を原則とするが、学力調査のデータを提示して分析する作業(およびそのために必要な技術の習得)も含む。
前半は、まず、1990年代における学力と教育システムの変動に関する文献を読む。次に、学力低下論、学力格差論を扱った文献を読む。
前期レポートは、学力調査のデータの第1次分析を行い、結果を報告する。
後半は、学力に関する社会学的理論を主として扱う。
・以上の経常的演習に加えて、年2回のディベートを予定している。

1 1. 授業計画 ★の文献は、各自購入のこと

1. 4/21 introduction

< 1990年代 学力と教育システムの変動をとらえる >

2. 4/28 本田由紀「90年代におけるカリキュラムと学力」『教育社会学研究』第70集、2002年
3. 5/12 市川昭午「90年代 教育システムの構造変動」同上書所収、2002年
4. 5/19 尾嶋史章「社会階層と進路形成の変容」同上書所収、2002年
5. 5/26 伊藤茂樹「青年文化と学校の90年代」同上書所収、2002年
6. 6/2 高旗正人「逸脱と生徒指導」同上書所収、2002年

< 学力論争を読む >

7. 6/9 ★市川伸一『学力低下論争』ちくま新書、2002年 その1
8. 6/16 ★市川伸一『学力低下論争』ちくま新書、2002年 その2
9. 6/23 寺脇研「なぜ、今『ゆとり教育』なのか」文藝春秋編『教育の論点』2001所収
分析データの配布と紹介
10. 6/30 ★苅谷剛彦ほか『「学力低下」の実態』『論座』岩波ブックレット No.578 その1
11. 7/7 ★苅谷剛彦ほか『「学力低下」の実態』『論座』岩波ブックレット No.578 その2
12. 7/14 耳塚寛明ほか「先鋭化する学力の二極分化 学力の階層差をいかに小さくするか」『論座』2002年11月号
13. 7/24 水曜日 第1回ディベート ゼミ・コンパ

Mail to: mimi@li.ocha.ac.jp

(後期は、<学力の社会学的理論>から開始する。バーンステイン、ブルデューらが登場)

1 2. 学生へのメッセージ

①参加者は、各回ごとに指定された文献を予め読んでおくことを要する。

参加者:最低限、「わからないところ」がどこであるのかを「わかる」

報告者:サンプルに従ってレジюмеを作成する。

1) 忠実な内容の要約(まずは)

2) academic term の調査と解説

例: 新教育社会学辞典 新社会学辞典など

3) 重要な関連文献・資料の調査と解説

4) 議論を行う際の論点の提示

②各回とも、担当学生による報告の後、議論する。司会は担当学生が務める。

③報告レジюмеの作成要領とレポートの課題は、第1時間目に指示する。

④データの分析には、SPSSを用いる。その利用の仕方に関しては、TAによる講習会を行う。

⑤COEセミナー(プロジェクトⅢ)において、関連テーマを扱っている。積極的に参加のこと。

5/9 金曜日 15:00-17:30 「学力を測る」

⑥ゼミは、学生が主体である。関連する文献をあなた方がゼミで取り上げたいと合意した場合には、予定を変更することもあり得る。

1 3. その他

Office Hour: 水曜日午後(教授会等がない日)

役割分担:ゼミ委員2名

ゼミ進行の幹事 文献配布の準備 ディベートのテーマ設定 コンパの設定

名簿の作成など